良城

かわらばん

良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより 12 月号
児 童 数 8 2 7 名
平成 29 年 11 月 25 日

「おじちゃんへの恩返し」　大人の熱い心は繋がる

校長　増　野　淳　一

先日、本校体育館で子ども会主催のドッヂビー大会がありました。この大会は、少しでも多くの子どもが参加できるようにと、吉敷地区子ども会単独の事業として7年前から行われています。

子ども会活動は、かつては全ての自治会に組織され、多彩な活動が行われてきました。しかし、現在は組織率もどんどん下がり、吉敷地域は3～4割しか市子ども会連合会に所属する自治会はないそうです。この割合は、市内で最も低いのではないかということです。

私が小学生の頃（約50年前・宇部市）は、全ての地域に子ども会がありました。夏の海水浴、秋のバス旅行、冬のクリスマス会、春のお別れ会など、様々な活動がありました。また、夏には男子は校区全体のソフトボール大会があり、春からずっと練習をしてきました。夏の土曜日には、夜7時直前まで近くの広場で練習し、いつも必死で走って帰って「巨人の星」を見たものです。監督さんは地域のおじちゃんでした。おじちゃんには、ソフトボールだけでなく、いろいろなことを教わりました。

背の高い上級生の後ろ姿を見て育ち、そして、いつの間にか自分が下級生を連れて遊んでいました。けんじ君、たか坊・・・。いつも遊んでいた幼なじみです。今でも、その頃のことを思い出します。自分の子ども時代の原風景です。

私たちは、いつも地域の方々に温かく見守られて育ってきました。子ども会はその中心的な役割を果たしていました。子ども会ならではの異年齢の子ども同士の交流。そして、何よりも地域の大人との交流は、子どもの心の成長に多大な影響を与えると思います。

その後、私は20年ほど前、自分の子どもが小学生の時に、地域（平川）の子ども会のソフトボールの監督を引き受けました。何ヶ月間も休日に練習するのは大変ではありましたが、自分を育ててくれたあのおじちゃんへの恩返しでもあると思うと苦にはなりませんでした。

近所の子どもたちも私の子どもも、きっと同じように感じてくれるのではと思っています。二十数年後には、増野のおじちゃんの姿を思い出して、バットを振ってくれたらうれしいです。大人にしてもらった世話は、子どもたちの心に届いています。受けた世話へのご恩は、いつの日か、今度は自分が世話をして返すことでしょう。

市の子ども会の事務局によると、現在、山口市の小学生の加入率は、児童数換算で7割弱と全体的にはまだ多いのですが、旧市内は残念ながらどんどん低くなっているそうです。共働きの増加等、昔とは状況が違うため、かつてのような活動は難しいと思います。しかし、ドッヂビー大会で、学校では見られない、いろいろな年齢の子ども達が一緒に活動している姿を見ると、子どもの心を地域で育てる活動は何としてでも続けてほしいと心から思います。特に、山口市の子ども会は中学生も関わっていて本当に素晴らしい組織なのです。

一方で、学校のコミュニティ・スクールの取組も大人と子どもの貴重な交流の場です。本校コミスクの取組の一層の推進の思いを新たにしました。吉敷地域の子どもたちのために、延いては地域みんなのために、保護者や地域の皆さんの一層のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。